

平成 28 年

環琵琶湖文化論実習

生活栄養学科 1 回生は、「環琵琶湖文化論実習」という科目で、滋賀県の食文化について事前学習を行い、一泊二日で「実地調査」へ行ってきました。

前期開始と同時に 5～6 人の班に分かれて、「ふなずし」、「湖魚」、「郷土料理」、「近江牛」、「醤油」のテーマについて調べてきました。

一泊二日の実地調査では、「乃利松食品吉井商店」、「喜兵衛」、「琵琶湖博物館」、「魚治」、「かくみや醤油原宮喜本店」へ伺ってお話を聞き、琵琶湖を一周してきました。

滋賀県外から進学した学生も多く、滋賀について知らないことも多かったのですが、この 2 日間で滋賀県の文化や琵琶湖の環境について知ることができました。

魚治では「ふなずし」のお茶漬けをいただきました。

「ふなずし」を初めて食べた人も多くて、滋賀県の食文化に触れることができ、貴重な経験になったと思います。



(東田)

管理栄養士国家試験合格発表

3月に行われた第30回管理栄養士国家試験の合格発表が5月10日にありました。

今春の卒業生30名が受験し、うち28名が合格しました。合格率は93%です。

ちなみに、昨年度（第29回管理栄養士国家試験）の合格率は94%、一昨年度（第28回管理栄養士国家試験）の合格率は96%でした。

(東田)

新入生

滋賀県立大学では入学식을4月7日に行いました。

今年度の生活栄養学科への新入生は32名です。

入学式翌日のオリエンテーション時に、恒例の集合写真を撮影しました。



(東田)

学位記授与式

3月21日に学位記授与式が行われ、生活栄養学科の4回生31名が卒業し、健康栄養部門の博士前期課程2回生名が修了しました。

交流センターホールで大学および大学院の全体の学位記授与式が行われたのち、教室に移動し、学部卒業生は一人ずつ卒業証書を、博士前期課程修了者は学位記（修士号）を受け取りました。

交流センターで開催された学位記授与式では、本学同窓会である「湖風会」から優れた学修成果を修めた各学科1名の学生に対して「同窓会学生表彰」が贈られ、生活栄養学科からは大裕さんが表彰されました。

また、管理栄養士養成課程を最も優秀な成績で卒業する学生に一般社団法人全国栄養士養成施設協会理事長表彰が贈られ、大裕さんが受賞しました。

生活栄養学科を優秀な成績で卒業する学生に対して生活栄養学科成績優秀者表彰が贈られ、大裕さん、諸道さん、猪巻さん、馬淵さん、森下さん、藤田さんが受賞しました。



(東田)

修士論文発表会

2月19日に修士論文発表会を開催しました。

博士前期課程（修士課程）の大学院生は、大学病院や総合病院など最先端で管理栄養士として活躍したい、企業で研究開発・商品開発に携わりたい、研究者になりたいといった夢の実現に向けて、2年間、一生懸命になって研究と勉強に打ち込んできました。

皆、修士論文研究の成果としてすでに学会発表を行っており、さらに学術雑誌で発表するために学術論文としてまとめています。

先に行われた卒業研究発表審査会とくらべ、修士論文発表会の発表時間、質疑応答時間は長く、質問の内容もかなり踏み込んだ高度なものになります。

そして、今年も、分かりやすい高レベルの発表が行われ、質問に対しても明快な回答が得られ、教員としても納得のいく修士論文発表会となりました。

教員一同、皆さんの大活躍を期待しています。

(東田)

平成 27 年度卒業研究発表審査会

2月6日に平成26年度卒業研究発表審査会を開催しました。

生活栄養学科では、4回生になると1年間、研究室に所属し、卒業研究として栄養学の最先端の研究課題に取り組めます。

研究テーマの概要をいくつか紹介しますと、

- ・食餌がビタミン代謝におよぼす影響を明らかにする
- ・食品成分によるがん細胞増殖抑制メカニズムを明らかにする
- ・アミノ酸代謝調節による脳環境の保護を目指す
- ・患者の意思決定の特徴に応じた栄養指導法の確立を目指す
- ・妊娠期・授乳期にストレスの少ない栄養食事指導法を確立する

などがあります。

研究室によって研究テーマが異なるのはもちろんのこと、目的、方法、対象も変わります。

患者、高齢者、授乳婦を対象に質問票を用いた調査を行ったり、食品成分を摂取したヒトのデータを記録したり、遺伝子改変動物を飼育したり、培養細胞中のタンパク質やDNAを測定したりするので。

さて、今年度の卒業研究発表審査会も交流センター大ホールを会場として使用し、生活栄養学
科学生、健康栄養部門の大学院生、生活栄養学科の教職員の計 150 名以上の前で発表を行いました。
パワーポイントを用いた発表の後は、教員や大学院生からの厳しい質疑応答です。

今年も例年通り、簡潔に分かりやすくまとめた発表&質問に対する的確な回答というよい発表
が行われました。

年々、発表のレベルが上がっていることを実感しています。

(東田)